

B-17 接着布の洗たくによる性能変化
奈良佐保女学院短大 ○岡本陽子
奈良女大家政 丹羽雅子

目的 接着芯は縫製工程の省力化などの利便をもち、また、布に寸法安定性を付与するため、ポリエステル・羊毛混紡布のW・W性と合いよって衣服の水洗いを可能にする。これらの接着芯接着布の洗たくによる性能変化を洗たく前後の接着芯接着布の基本物理特性の計測によって捉える。羊毛100%の表地についてはドライクリーニングの面から、W・W性のあるポリエステル・羊毛混紡の表地については水洗い、ドライクリーニングの両面からこれらの洗たくによる性能変化を明らかにする。

方法 試料は羊毛・ポリエステルの混紡率の異なる男女学生服用表地7種、基布の構造が編布、織布、不織布の接着芯それぞれ2種ずつ用いる。ドライクリーニング条件は溶剤パークロルエチレンを用い、常温にて7minクリーニングし、乾燥は15minとする。家庭用電気洗たく機による水洗い条件は中性洗剤濃度の2%で、40℃、20minの本洗い、バッチ方式で40℃、3min、2回のすすぎ、遠心脱水機によって3min脱水する。接着布の基本物理特性として引張り、曲げ、表面、せん断、厚さ、重さをKES-F計測システムを用いて計測する。

結果 水洗いによる厚さ、重さの変化はほとんど見られないが、芯地の性能に関与する曲げ剛性、曲げヒステリシス、せん断剛性、せん断ヒステリシスは繰返し洗たく回数が増加につれて大きく変化する芯地と比較的変化の少ない芯地がみられ、これらは接着芯基布の構造の影響が大きい。また、これら基本物理特性から求まる凡合い値も同様の変化がみられる。繰返し洗たくによる基本物理特性の変化は収縮率との関係で捉えられ、水洗いとドライクリーニングによる性能変化の様相は異なることが認められる。